

2015 年 10 月 17 日

平ヶ岳山行報告書

M0 上村拓

【参加メンバー】

平成 27 年度卒 荒川先生 M0 上村 C1 木村 計 3 名

【コースタイム】

10 月 17 日（土）平ヶ岳登山口 05:30～07:15 下台倉山～08:12 台倉山～10:10 池ノ岳～10:35 平ヶ岳～
12:05 玉子石～12:25 池ノ岳～14:15 台倉山～14:45 下台倉山～16:30 平ヶ岳登山口

【本文】

平ヶ岳はおそらく最も渋い百名山の一つであろう。山塊の中央にひっそりと佇み、その帯（一泊二日）に短し襷（日帰り）に長しといった登山道は登る者を選ぶようである。今年の涸沢診療所で荒川先生に 10 月の週末は空いているから平ヶ岳に行きたいと声をかけられ、計画を練った。日が短くなるこの季節はやや厳しいかと思われたが、一泊するほどでは無いような気がして日帰りを目論む。コースタイム通りでは日が暮れるのでやや短縮した計画書。まあ若さで乗り切れるだろうと楽観主義で臨む。

前日の夜に都内を出発、日付が変わる頃に登山口へ着く。星空が綺麗である。意外にも車は多い。高速道路で初心者マークを一つ失った悲しみに暮れながら車中で仮眠。翌 5 時に目を覚ますと周りの登山客たちはすでに登り始めんとしているところ。我々は薄明の 5 時半に出発。辺りは仄暗いが、それでも木々が色づいているのが分かる。下の方は紅葉の盛りらしい。幸せな気分で広い砂利道を歩いていく。しばらくしてこの先ヤセ尾根の案内。山頂までは 10 キロと少しらしい。上高地～横尾間より短いじゃないか。余裕余裕。登り始めて 20 分もすると徐々に視界が開けてくる。まさにヤセ尾根、両側はまばらな灌木。見渡せば真っ赤な山肌。実によい時期にきたものである。道自体はそこそこ急で、トラロープも何ヵ所か張られていた。登るに従い視界はぐんぐんよくなり、辺りの写真を撮り撮り進む。2 回ほど休憩を入れて後下台倉山である。ここまでで 800m も登っている。実際今日のきつい登りはここまでで、残り 500m 程はひたすらだらだらと上げていくのである。台倉山まではややトラバース気味。大白沢を挟んで両側の斜面の紅葉を楽しみながら進む。台倉山は三角点のみ。なでなでしてから少し下ると台倉清水。登山道よりやや下ったところに水場があるが、殆ど出ていなかったそう。ここから登山道の雰囲気は一転、両側を背の高い木が取り囲み、その間を縫っていくように進む。木道がついているところもあるが、所々に倒木やぬかるみがあり歩きやすさは足して 2 で割って普通。白沢清水を越え池の岳までの尾根に取り付くと再び視界は開け、平ヶ岳もいよいよ見えてきた。現代数学の話をしつつ登って行くと、急に目の前に池塘が現れ、池ノ岳である。そこから木道歩きを 2～30 分平ヶ岳の山頂だ。幕営できそうな広いスペースがある。残念ながらガスで視界は無し。カフェラテを飲んで一服。越後三山に続くであろう道や至仏山に続くであろう道を確認した後、玉子石へ。池ノ岳との分岐を過ぎ意外と長い木道の先にどうしてこうなったというような石。背後の池塘と合わせてなかなか絵になる。池ノ岳に戻りひとしきり池塘群と平ヶ岳の眺めを楽しんで、下山。岩場の通過は少しひやひやするが、たいしたことは無い。と、遠雷の音。まさか。早めに下りた方がいいかなと思いつつも、取りあえずは焦らず。平ヶ岳はルー

2015 年 10 月 17 日

トがほぼ一つだけなので今回はピストン。勝手知ったる道とひょいひょい進んでいく。時折雨がばらついてきた。まだ雨具は着ない。台倉清水で水を汲みなどしつつ下台倉山まで下りてきた。遠雷の音愈々近し。見れば会津駒の方で大雨が降っている。こっちには来るなよと念じつつ先を急ぐ。しかし目の前に広がる紅葉は美しいものだ。登山口まであと 30 分くらいのところだったろうか、何やらパラパラと降り出した。見ればなんと雹である。初めは珍しいものだと余裕でいたが、急に強か降ってきた。珍しいね、どころの騒ぎではない。こりゃたまらんと木陰で雨具装着。濡れるのは勿論雹なのでまこと痛い。遮二無二下っていく。ここからは景色を楽しむひまなどなかった。トラロープの通過など少し怖いかな、とも思ったが無事駐車場まで下山。その頃にはただの雨に変わっていた。いや、こんな目に合うとは魂消たものである。

最後は大変なものだったが平ヶ岳は様々な表情を見せてくれたし、紅葉や池塘も美しく素晴らしい山であった。一泊する価値もあるかもしれないな、などとぼんやり考えつつ道中の温泉で疲れを癒し帰途についた。

